川越市立博物館

博物館だより

第25号

柿本人麿

中　務

三十六歌仙額 岩佐勝以筆〈重要文化財〉（仙波東照宮蔵）

この絵額は、川越市小仙波の東照宮に奉献されたもので、絵は岩佐又兵衛尉勝以、書は御家流の祖青蓮院宮尊純法親王の筆といわれる。

檜の柾目板に黒漆の縁をつけて金具を以て装飾し、板目に胡粉を塗り金箔で仕上げたうえに36人の歌人（歌仙）の姿が極彩色で描かれている。

歌人の絵姿を描くことは、平安時代から見られるが、鎌倉時代になると本格化し、似絵（にせえ）と呼ばれる肖像画の流行もあって、藤原公任撰の秀歌集「三十六人撰」などに基づく歌人の姿・和歌を左右対に描く歌合絵巻が成立した。その代表的作品が、鎌倉初期の製作と見られる佐竹本三十六歌仙絵で、書は後京極良経、絵は藤原信実と伝えられる。

さらに室町時代になると、歌道の上達祈願、社殿の荘厳などのため歌仙額を社寺に奉納することが行われるようになった。滋賀県石部町白山神社の板絵著色三十六歌仙扁額（重要文化財）などがある。

東照宮の三十六歌仙額は、柿本人麿と中務（なかつかさ）の２面に、「寛永十七庚辰年六月十七日　絵師土佐光信末流岩佐又兵衛尉勝以図」と記されている。寛永17年６月17日は、寛永15年の火災により焼失した東照宮の再建工事竣工の日であり、製作年代の明らかな岩佐又兵衛の作品として重要文化財に指定されている。

岩佐又兵衛は、伊丹摂津城主荒木村重の遺児で、京都にあって土佐派・雲谷派の画技を学んだというが、つまびらかではない。一時福井藩主松平家に仕えたが、寛永14年江戸に出て活躍した。かつては、又兵衛を浮世絵の開祖とする説もあったが、現在では否定される。

江戸リサイクル再考　—陶磁器の焼継ぎを中心として—

1．「リサイクルの時代」への疑問

今から10数年ほど前、空前の江戸ブームがありました。

巨大都市江戸の成り立ち、そこに生きた庶民のくらしぶり、また、軽妙で洒脱な遊びの文化。さまざまな分野の研究が行われ、書店にはこの時代を取り上げたたくさんの書籍が並びました。そのどれもが、これまで身分制度できつく戒められ暗黒の時代とされてきた江戸時代観の再検討を迫るものでした。江戸時代が人間性を追求した遊びと好奇心の時代として積極的に評価されるようになったのです。

こうした江戸時代を肯定する歴史学の潮流や現代のゴミ処理問題への反省の中から、都市としての江戸のリサイクルシステムが注目されるようになりました。

長屋から出る多量の糞尿は周辺の農村へ運ばれて肥料となり、不燃ゴミは永代島に運ばれて海の埋め立てに使われました。また、鍋釜を直す鋳掛屋やキセルを直す羅宇屋、燭台にこぼれた蝋燭の滴を買い歩いた蝋燭の流れ買い、破傘の骨を買い集めた傘の古骨買いなど物品の修理・再生に関わる職人たちの何と多いことでしょう。

こうして、江戸時代はリサイクルが究極まで押し進められた理想的な時代として、一躍脚光を浴びるようになったのです。

ここでみなさんにお話しする陶磁器の補修も、これまで江戸時代のリサイクルという文脈の中で、多くの研究者たちによって取り上げられてきました。しかし、江戸時代の人々は割れてしまったすべての器を補修し、使い続けていたのでしょうか。江戸時代のリサイクルは、果たして環境保全を前提とした現代のリサイクルと同じ次元で考えることができるのでしょうか。

ここでは、陶磁器の補修を中心に「リサイクルの時代」へ小さな疑問を投げかけてみたいと思います。

2．陶磁器補修の技法

割れた陶磁器の破片を補修して使うことは、江戸時代以前からも行われていました。

室町時代、足利義政が愛蔵した名碗に「馬蝗絆」があります。この碗は、中国宋代の青磁の碗で、修理に用いた鋲が馬の背に留まった蝗のように見えることからこの名があります。同様に鋲で割れ目を修理した陶磁器は、福井県一乗谷遺跡の朝倉館跡からも出土しています。これも、やはり中国で宋代に焼かれた白磁の鉢です。このように、この時代の鋲による陶磁器の補修は、茶器や骨董など有力者のステータスシンボルに限って行われていたようです。

江戸時代になると、割れた陶磁器を漆で繋ぐようになりました。これは、漆のもつ接着力を利用して破片を接合する方法で「漆継ぎ」と呼ばれています（写真１）。古くから漆の文化に親しんできた日本ならではの補修技術と言えるでしょう。この漆継ぎの普及によって、日常生活で使われる陶磁器も次第に修理して使われるようになりました。しかし、まだ破損した陶磁器全体に対する補修頻度は低く、漆継ぎされたのはほんの一部の高級品に限られていました。

「焼継ぎ」は、白玉粉と呼ばれる鉛ガラスを使って、割れた陶磁器を繋ぐ補修方法です（写真２）。白玉粉の融解温度は750℃程度とされており、焼継ぎには小規模な窯が必要でした。また、享和３年（1803）の『怪談模々夢字彙』には、天秤を担ぐ職人の姿が描かれています（第１図）。このことから、焼継ぎ職人は町場に固定した仕事場をもち、市中を廻って注文を採って歩いたものと考えられます。小川顕道の『塵塚談』には「陶器焼継ぎのこと、寛政二戊年までは、江戸に焼継ぎということはしらざりしなり。京都にはそのころ焼継ぎありけるよし、近頃は江戸に焼継ぎを産業とするもの夥しくできしなり、このゆえに瀬戸物屋商い薄くなりしというほどなり」とあります。この記述から、寛政２年（1790）以降、江戸において丈夫で安価な焼継ぎによる陶磁器の補修が、庶民の間にまで広まってゆく様子を知ることができます。

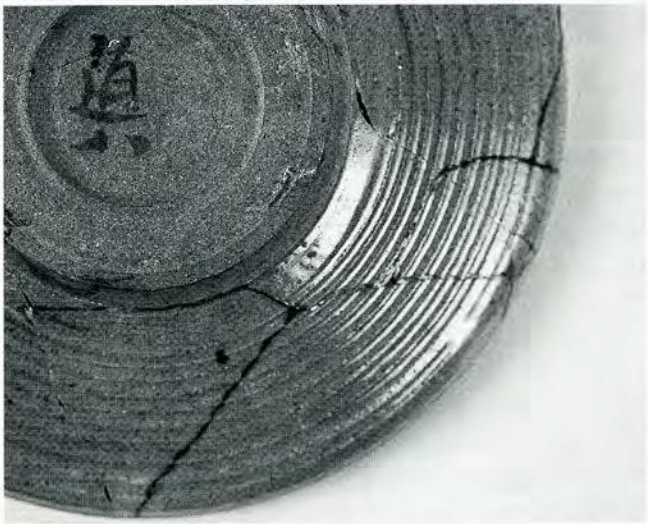


写真１　漆継ぎによる補修

写真２　焼継ぎによる補修

第１図　描かれた焼継ぎ職人（左：『怪談模々夢字彙』より　右：『略画職人尽』より）

３．出土陶磁器に見る焼継ぎの実態

では、江戸時代の人々は、焼継ぎの普及によって破損した陶磁器のすべてを補修していたのでしょうか。

ここでは近年、川越城下とその周辺で調査された江戸時代の遺跡を例に、焼継ぎによる陶磁器補修の実態について見てゆきたいと思います。

まず、川越城下での出土陶磁器について見てみましょう。

原沢家は、川越市喜多町にある商家で、江戸時代から代々米穀商を営んできました。取り壊しが予定されていた穀倉の建物調査に伴い発掘調査が行われ、幕末の地下室１基が発見されました。ここで取り上げる陶磁器は、この地下室から出土したものです。

出土陶磁器は、食膳具・調理具・灯火具・神仏具などの生活雑器が大半ですが、グレードの高い器種が多いことが特色です。当時流行の鍋料理に使われた散蓮華（ちりれんげ）や土鍋、箸置などに加え、オランダ製のコーヒーカップが出土していることは特筆されます。

焼継ぎ痕の確認された資料は、出土陶磁器104点に対し、８点です。器種としては、揃い物や組み物の碗・皿や、高級品の蓋物（ふたもの）・中鉢などが多いようです。

次に周辺村落の出土陶磁器について検討します。

谷津遺跡は、富士見市鶴馬にある遺跡です。この周辺は、江戸時代には川越藩領鶴馬村に属していました。発掘調査では、大井宿から浦和宿に向かう道に面して、２軒の屋敷地が確認されました。このうちの１軒からは、幕末期の地下室２基が発見され、多量の陶磁器が出土しました。

出土した陶磁器は、食膳具・調理具・灯火具などの生活必需品を中心に構成されること、くらわんか碗や半筒碗など比較的安価な製品が多いことなどの特徴があります。また、本遺跡では、徳利が25点と一般の農家より多く出土していることも注目されます。銅製銚子２点が伴出していることを考え合わせると、道行く人々を相手に酒に関わる商いをしていた可能性も考えられます。

焼継ぎされた資料は、出土陶磁器135点に対し、わずか１点でした。この資料は、肥前系磁器の染付蓋物です。呉須（ご）の質も良く、文様も丁寧で、他の陶磁器に比べると高級品の部類に入るでしょう。

４．壊れた陶磁器の末路

以上、川越城下と周辺村落の遺跡から出土した陶磁器について検討しました。これらのことから、焼継ぎに関する次のような特徴が明らかとなりました。

ひとつは、焼継ぎされる陶磁器には高級品が多いということです。武州生麦村（なまむぎむら）の名主の記した『関口日記』によれば、天保年間（1830～44）の焼継ぎの値段は、14文から26文程度です。高価な器を買い替えるより、割れた破片を焼継ぐ方が安かったのでしょう。その証拠に、くらわんか碗や半筒碗など安価な製品で焼継ぎされたものは極めて稀です。

もうひとつは、揃い物や組み物などに焼継ぎが多いことです。民具資料でも、「二十人揃」、「三十人揃」と書かれた木箱入りの碗・皿をよく目にします。これらは、冠婚葬祭などの折、来客をもてなすため使われました。こうした時、異なった形・文様の器を混用するのは、非常に見苦しいことでした。このため、揃い物・組み物の器は優先的に補修されたものと思われます。

焼継ぎが農村部に少なく、都市部に多いことも大きな特徴です。前項で見たように、焼継ぎ職人が天秤を担いで注文を採って廻ったとするならば、商売の範囲はおのずと限られるはずです。きっと注文の多く採れる地域を集中的に廻ったことでしょう。多くの人々が集住し、消費活動が活発で陶磁器の世代交替も早い都市部は、焼継ぎの注文も多かったに違いありません。

これらのことから、江戸時代の人々は、破損した陶磁器を経済的・社会的要因によって選別し、必要に応じて補修していたことがわかりました。選別から漏れた大部分の陶片は不燃ゴミとして処理されていたのです。江戸や川越などの都市遺跡では、屋敷地の裏側に巨大なゴミ穴が掘られていることがよくあります。これらのゴミ穴から出土する多量の陶片が、こうした陶磁器の末路なのでしょう。

このように、江戸時代の都市は決してバラ色のリサイクル都市ではなく、現代と同じく、大量に排出されるゴミの処理に苦しめられていたのです。江戸時代のリサイクルシステムは、あくまでも当時の社会の要求によって生まれたものであり、これを過剰に評価することは、歴史の本質を見誤る恐れがあります。

（学芸係　岡田　賢治）

六・三制と宝くじ

昭和20年８月の太平洋戦争敗戦後、日本を占領した連合国軍総司令部は、制度改革に関する指令を矢継ぎ早に発した。教育制度についても例外ではない。

昭和20年だけに限っても、10月22日に日本教育制度に対する管理政策、ついで12月には国家と神道の分離（15日）、修身・日本歴史・地理の授業停止（31日）などの指令が発せられている。

これらの改革指令が、教育現場はもちろんのこと、敗戦という未曽有の事態の最中にあった行政機関に一層の混乱状態を引き起こしたことは想像に難くない。

その一例が校舎整備問題である。昭和22年３月に公布された学校教育法に基づき、同年４月１日いわゆる６・３制教育制度が発足した。この時、埼玉県では新制公立中学校355校が誕生したが、校舎の準備が間に合わず、大半が既存の小学校などに併設された。現川越市域では、公会堂や川越城本丸御殿も一時は仮校舎として使用されたほどであった。

このような状況を改善するため、各自治体では校舎建築に取り組まざるを得なかったが、財源不足などから、校舎問題はしばしば政争の具と化した。埼玉県では、「命取り六三制と供出」との新聞見出しで報じられたように、当時18名の町村長が６・３制校舎問題を理由に任期途中で辞職している（『埼玉県教育史』第六巻）。

校舎整備の財源確保のためには、住民からの税外負担を調達する施策も講じられた。たとえば、川口・浦和・大宮・川越などの市では、教育施設整備のため出資組合が組織され、市民から多額の資金を調達している。

さらに埼玉県では、当時人気のあった宝くじを発行して、６・３制教育資金の調達を図った。写真の「埼玉縣六三制宝くじ」（１枚20円）がそれである。昭和23年11月９日に発行されたが、同日付けの埼玉新聞によれば、総発行枚数は200万枚で、消化目標額の割当ては、金融機関その他団体へ800万円（40万枚）、各市町村へは3200万円（160万枚）であった。

ちなみに、宝くじは昭和20年10月に政府が発行したのが最初で、翌21年から法律改正により都道府県でも発行できるようになったのである。

（T．T生）

平成９年度　資料寄贈者芳名録

平成９年度中に資料を御寄贈いただいた方々です。厚くお礼申し上げます。

小林寿男　瀬沼憲一　大岡明男　高野一郎　小野芳孝　田中留三郎　久高唯進
正木盛治　田中寿男　田村みつ　泉名喜雄　渡辺ふさ　清水世都子　小田伍良
濱野千三　坂田久子　（敬称略・順不同）

博物館展示に適した資料をお持ちの方は、どうぞ当館までご一報ください。

ホームページ利用状況調査報告

蔵造り資料館

博物館だより第24号において、資料館ホームページを開設したことをお伝えしました。

このホームページでは、7月15日～8月14日の1カ月間にわたり、利用状況調査をアンケート形式で実施しました。その結果、全国各地から約600件のアクセスがあり、有効アンケート数は200件でした。

この調査のねらいは、ホームページ上では把握が難しい利用状況について確認すること、そしてまた、内容に対する評価・感想及び要望するものが何かを把握することです。

また、今後のホームページの見直しに役立てることに加え、ホームページの存在をアピールすることで資料館のこと・博物館の事業等について周知徹底を図り3館の入館者増へ結びつける、というねらいも含んでいます。

川越 Internet Mall　蔵造り資料館

－重厚な中に品位ある意匠を今に伝えて－

蔵造り資料館は、他の蔵造り商家と同様に明治２６年の川越大火直後、類焼を免れた数軒の蔵造りに習うとともに、東京は日本橋界隈の商家を参考に、当時煙草卸商を営んでいた小山文造氏（屋号「万文」）が建てたものです。資料館では、川越の蔵造り家屋の意匠や構造、敷地内の様子を目の当たりにでき、今もなお息づく江戸の佇まいを体感できます。

- ホームページアンケート　NEW　御協力いただいた方の中から、抽選で５０名様に招待券を進呈！
- 川越に蔵造りの町並みができるまで
- 煙草卸商『万文』
- 『万文』ゆかりの品々
- ザ・蔵造り　ここがチェックポイントだ！
- 町火消について
- 利用・交通のご案内

川越市ホームページへ
川越市役所のホームページ。市政情報、観光案内などを掲載。歴史と文化の街・川越市について総合的に紹介をしています。

戻る

Copyright(C)1998 OP Co.,Ltd
office@kawagoe.com

川越 Internet Mall　蔵造り資料館

川越市蔵造り資料館ホームページアンケート

本日は、川越市蔵造り資料館のホームページにアクセスいただきまして、ありがとうございました。今後の参考にさせていただきますので、ホームページをご覧いただき、アンケートの御協力をお願いいたします。
御協力いただいた方の中から、抽選で５０名様に招待券を差し上げます。なお、アンケートの集計は７月１５日～８月１４日の期間とさせていただきます。招待券発送者発表は８月２１日（予定）にこのページ上で行います。

この招待券で川越市蔵造り資料館、川越市立博物館、川越城本丸御殿の３館にご入場いただけます。招待券１枚につき２名様有効。小江戸川越の散策とともにお楽しみいただけます。

●アンケートは、今後の当ホームページの参考資料とするためのもので、回答の内容が抽選に影響することはありません。●同じ方が何度応募されても、一人の方として登録されますので、ご注意ください。●ご回答いただいたアンケートは、当ホームページの参考資料として、厳重に管理いたしますので、外部に公表されることはありません。

トップページへ行く

アンケート

1．性別を教えてください
○男　○女

2．年齢を教えてください
○10代　○20代　○30代　○40代　○50代　○60歳以上

3．機会があれば、実際に蔵造り資料館に来てみたいと思いますか？
○ぜひ行きたい　○機会があれば行きたい　○それほどでもない
○行きたいとは思わない

4．職業を教えてください
○会社員　○公務員　○自営業　○自由業　○無職　○主婦

分館だより

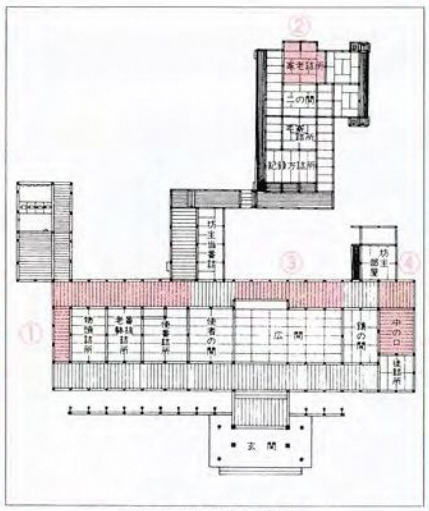
展示のリニューアルを実施

本丸御殿

川越城本丸御殿は、嘉永元年（1848）に第16代川越藩主松平大和守斉典によって造営されたものです。当初は16棟、1025坪ありましたが、明治維新後解体が進み、現存するのは玄関部分と家老詰所のみで、本来の約10分の1の規模となっています。本丸御殿は昭和42年（1967）に、家老詰所は移築復元後の平成3年（1991）にそれぞれ県指定文化財に登録されました。かつて17万石を有した川越藩をうかがい知ることのできる唯一の建物です。

今回の展示リニューアルは、この貴重な建物自体の特徴をより体験的に実感できるよう配慮し、また内部展示についても、川越城や本丸御殿に関連する内容に統一して実施いたしました。まず第一に御覧いただきたいのが建物の特徴です。唐破風の大玄関、櫛形の塀、36畳の大広間、長さ35.5mにも及ぶ表廊下、ボール跡の残る天井、天井の高さ、そして杉戸絵等々。150年余にわたる歴史を追体験できることと思います。そしてもう一つが内部展示です。図の通り四つのコーナーに分けて設定いたしました。順路に沿って最初が「川越城と本丸御殿」、2番目が「幕末期、川越藩家老詰所の再現」、3番目が「二の丸跡の発掘」、最後が「城と武士にゆかりの品々」です。各コーナーとも、パネルや実物資料、レプリカ等を用いてシンプルかつ分かりやすい展示を心がけました。

博物館によって管理、運営が行われるようになった平成2年3月以降、庭の整備やトイレの改修、車椅子利用による見学のためのリフトの設置など、徐々に博物館の分館としての機能を見直し、改善してきました。今回の展示リニューアルもその一つです。まだまだ不十分ではありますが、より多くの方々に見学していただける本丸御殿を目指して、これからも努力していきたいと思います。



現存する本丸御殿平面図

Information

講座・教室 etc.

行　　事	日　　程	申し込み
時代を超えて ～尺八・音の世界～ **ミュージアム・コンサート**	12/6(日)	11/11(水) より受け付け中
江戸時代の川越　パート2 **歴史講演会**	12/5(土)	受け付けは終了しました
地域に残る生活文化をじっくり体験 **子ども博物館教室（後期）**	11/22、12/19、12/20、1/31、2/28	11/1(日) より受け付け中
子どもの目から見た川越 **わたしたちの川越を描く美術展**	12/1～1/17 （展示期間）	
かつて織られていた布の美しさ **機織り基礎講座**	2/13、20、27(土) 全3回	2/3(水) 9:00～

お申し込みは、電話・ファックスで。　変更の可能性もありますので、詳細は「広報川越」を御覧下さい。お問い合わせは、博物館まで。

講座・教室 pick up

機織り基礎講座

布を作るため、昔から人々は工夫を重ねてきました。織り機も変化を続け、様々な美しい布が織られてきました。

今回は、その一端に触れる機会としていただければと思います。

2/13(土) 13:30～15:00	講義 「布と織りの魅力　―縞帳の美―」 埼玉大学　田村均氏
2/20(土) 13:30～15:30	アンギン、弥生機、地機、高機の体験
2/27(土) 13:30～15:30	アンギン、弥生機、地機、高機の体験

申し込み…平成11年2月3日（水）午前9時～
電話・FAXにて受付。

土曜体験教室

○**毎月第二土曜日**、博物館で遊んでみませんか？
申し込みは不要です。当日、直接博物館へおこし下さい。（参加のための入館は無料です）

●**時間**　午前10時～11時30分
午後1時30分～3時30分

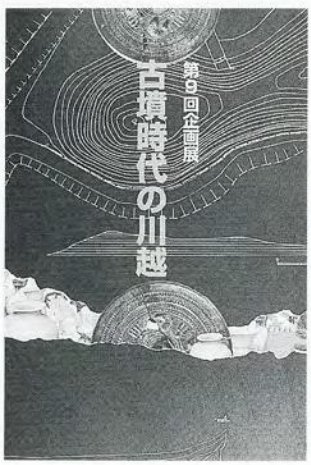
- 12／12　博物館マップラリー
- 1／9　どろめんこで遊ぼう
- 2／13　はかってみよう
- 3／13　手作りおもちゃ

図録紹介

博物館受付でお求めいただけます。

開館5周年記念特別展
酒井忠勝にみる近世大名の姿
―川越藩祖酒井家ゆかりの品々―　千円

第8回企画展
川越学事始め
～郷土史の系譜を追う～　千百円



第9回企画展
古墳時代の川越　千円

民俗展示室のコーナーから

老袋の弓取式

民俗展示室「ふるさとのまつりコーナー」では、季節毎に展示替えを行って川越市内の行事を紹介しています。今年の冬の展示では「下老袋の弓取式」を紹介します。

このまつりは、毎年２月11日、下老袋にある氷川神社で行われます。紙に書いた的に向かって、地元の子供達の中から選ばれた「ユミトリッコ」の代理である氏子総代３人が、弓を射ます。弓は３本ずつ３回射ますが、1回目は春、２回目は夏、３回目は秋の天気を占います。黒い部分に多く矢があたると雨が多く、反対に白い部分に多く当たると天気の日が多いと言われています。最後の矢が当たったのを合図に行事を見守っていた人達が矢を取り合います。矢を家に持ち帰ると丈夫な子供に育つと言われているからです。

境内では、集まってきた人達に甘酒と豆腐の田楽が振る舞われます。このことから、この行事を「甘酒まつり」とか「豆腐さし」と呼ぶこともあります。

学芸員実習が行われました

毎年、当館でも学芸員実習が行われています。将来博物館等で働くときに備え、学芸員資格を取得するためです。

今年度も、７月21日㈫から８月９日㈰まで約３週間、４人の学生が実習をしました。その感想を御紹介します。

本物の作品を使って資料の取り扱い方を勉強したり、市内の小中学生と一緒に川越の文化財を見学したり、とても充実した内容でした。実習に来て初めて、学芸員の仕事は、資料の収集・展示だけでなく、一般の利用者との交流を深める為に、積極的に講座や教室を企画して実施することも重要な仕事であるということを学びました。　（Ｓ．Ｔ）

３週間にわたって職員の方々全員からそれぞれの持ち場の仕事について教わったので、博物館という施設が機能するために必要なことの殆どを体験することができました。また、今現在、博物館が直面している様々な問題について、現場の人々のお話を聞き、討論できたことは、博物館学芸員として実際に社会に出た時には大変役立つものと思われます。　（Ｍ．Ｙ）

３週間という短い期間、学芸員の仕事を実際に体験したのは、とても良い経験となりました。資格を取るだけの勉強だけではなく、もっと広い意味での勉強となりました。

（Ｋ．Ｎ）

この博物館へ来て、私はとてもたくさんの体験をしました。

博物館というところは、本当に様々な機能があって、今まで博物館をただ『観る』ことにしか利用したことのなかった私にとって、この３週間は、毎日が新しい発見と驚きの連続でした。

戸惑うこともありましたが、この実習を通して、職員の皆さんをはじめ、来館者の方々など、たくさんの人達と出会えたことがいちばんの思い出です。　（Ｙ．Ｋ）

トピックス

台湾からの視察団が来館

9／13

9／27

台湾地域民俗文物協会「日本の民俗文物館視察団」国立雲林科技大学黄世輝助理教授ら一行18名が、日本の博物館事情視察のため、9月13日(日)に当館を訪問されました。

当日は、たまたま第8回収蔵品展「子どもを育む　―暮らしのなかの人形―」の最終日で、雛人形や五月人形など、市民の御厚意による展示資料の数々を御覧いただくことができました。

また、同月27日(日)には、同じく台湾から高雄縣立文化中心（文化センター）の博物館関係者一行がにわかに来館、意見交換の後、展示室や収蔵庫などを熱心に見学されました。

トピックス

川越中央ライオンズクラブから寄贈された観光案内板が、博物館前の歩道に面して建てられました。蔵造りの街にふさわしい意匠でお目見えしたこの案内板、川越観光のガイド役として大いにご活用下さい。

・・・・・ 利用のご案内 ・・・・・

◆開館時間　午前9時から午後5時まで（ただし入館は4時30分まで）

◆休館日　月曜日（休日は除く）、毎月第4金曜日（休日は除く）、休日の翌日（土・日曜日は除く）、年末年始（12/28～1/4）、燻蒸期間（7月上旬頃予定）、資料特別整理期間（12月中旬予定）

◆入館料

区　分	博物館	川越城本丸御殿	川越市蔵造り資料館	3館共通券〈博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館〉
大　人	200円(160円)	100円(80円)	100円(80円)	300円
学生・生徒	100円(80円)	50円(40円)	50円(40円)	150円
児　童	50円(40円)	30円(20円)	30円(20円)	80円

●（　）内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合。

●開館時間・休館日は、3館とも同様。（燻蒸期間・資料特別整理期間は博物館のみ休館）

交通案内

東武東上線・ＪＲ川越線　川越駅より
または西武新宿線　本川越駅より
東武バス　「札の辺」下車徒歩8分

発行日　平成10年11月30日　　発　行　川越市立博物館
〒350-0053　川越市郭町2丁目30番1号　☎0492-22-5399